

自己評価表(令和元年度)

愛媛県立東温高等学校

学校番号 26

教育方針	1 学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携を保ちながら展開する。 2 自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3 公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 —社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して—
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校全般	学校生活への支援	すべての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると感じるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	A	生徒が楽しく有意義な高校生活を送ることができるよう支援できているか、及び本校で教育を受けることの満足度で、生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。	授業を中心とした基本的な学習習慣の確立とともに、魅力ある学校行事や特別活動の精選・実施を図る。
	教育課程の編成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について、理解を得られるよう工夫するとともに、運用上の問題点についても対策を講じて、より効果的なものにする。	A	生徒の進路や実態に応じた適切な類型、コース、科目選択などを設定しているかの項目で、高い評価を得るとともに、運用についても教育課程研究委員会で定期的に検証した。	類型の設定を、これまで以上に進路選択に直結したものとるように、教育課程研究委員会で検討する。
学習指導	教科指導の充実	授業を最重視した学習習慣を確立させるとともに、すべての生徒に「分かる授業・おもしろい授業」を推進する。	B	タブレットを導入したり、教員の授業改善を推進することで、生徒の授業に対する満足度で高い評価を得た。	来年度さらにタブレットを増大するとともに、校内普通教室WiFi環境を利用し、生徒が興味を持って授業に取り組めるよう授業改善に努める。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的として共通実践月間目標を設定し、授業と家庭学習の一体化を図る。	B	家庭での学習習慣が身に付いていない生徒に対して、定期考査期間や長期休業中に学校で学習することを奨励し、一定の学習時間確保に学校全体で取り組んだ。	放課後の時間や学校の施設・設備を有効利用したりすることで学習習慣の確立に努めるとともに、学習の成果が実感できるような評価のあり方を実践する。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースに応じた高い目標を設定させ、最後まで粘り強く挑戦させる。	B	人文・理数・英語理解類型在籍の91名(81%)がセンター試験を受験した。その他の類型・商業科では、12月末時点で、進学希望者の90%が進学先を決定している。	担任・学年団と連携を取り、情報共有をし、各類型・コースにあった質の高い指導を行っていくとともに、生徒に高い目標を持たせ、進学しようという意欲を高める。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などに積極的に参加させることで、しっかりとした職業観を身に付けさせる。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴書の作成や面接指導を充実させた結果、12月末時点で94%が内定している。	確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のかもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導を行う。	B	大半の生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、落ち着いた学校生活を送ることができているが、地域の方に対する挨拶などはまだ不十分である。	日々の声かけ指導と家庭との連携をきめ細かく行い、共通理解・共通実践のもと、基本的な生活習慣の確立に努める。
	生徒理解への取組	年間6回以上の個人面談を実施し、生徒理解に努める。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	B	担任と学年主任が中心となつてきめ細かな指導を継続することができ、退学者・転学者が昨年度より減少した。	関係する教職員が一人または一部で問題を抱え込まないよう、学年団や各課との協働を一層進め、連携を密にしていく。
特別活動	学校行事の充実	各学校行事に生徒自ら主体的・意欲的に参加する態度の育成を図り、充実感や達成感を感じ取らせるように努め、活性化を図る。	B	生徒会執行部を中心に学校行事の活性化に着手しており、生徒が主体的に取り組めるようになってきている。	委員会活動の活性化を図りながらさらに生徒主体の充実した学校行事となるようサポートしたい。また、学校行事の内容についても再考したい。
	部活動の充実	部活動やボランティア活動、対外行事にも主体的に参加できる機会を増やし、主体的に活動できる環境を整え、高い目標を目指すように努める。	B	実績については概ね目標を達成できているが、挨拶や施設整備など基本的なことが未だ不十分である。JRC部をはじめ、多くの生徒がボランティア活動に参加することができた。	部員数の減少に伴い部の精選が必要である。戦績だけに目を向けるだけでなく、部室の管理や下校時刻の遵守など基本的なことを疎かにしないようサポートしたい。
人権教育	人権・同和教育の充実	同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進及び仲間意識を支えられた集団づくりを通じて、人権の確立と差別解消に向けた生徒の実践力を育成する。	B	人権・同和教育や命の大切さを考えさせる活動は成果があったが、保護者・教員の評価と生徒の評価に若干の差が見られた。	これまでの取り組みを地道に継続するとともに、特にいじめ問題のより一層の早期発見・早期対応できるように、生徒課・教育相談課との連携を深める。
道徳教育	道徳教育の充実	自立した個人として、また、国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける生徒を育成する。	B	全体としては、社会のルールやマナーを守る生徒の意識は向上しているが、清掃活動については、教員と生徒の評価に若干の差が見られた。	これまでの取組を地道に継続することで、人間としての在り方である道徳性を身に付けさせるとともに、義務を果たし責任を重んずる道徳的実践力の向上を目指す。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識を高め、事件・事故を未然に防止する能力を身に付けさせるとともに、万一の際の事後対応能力を高め、学校や地域社会の安全に貢献できる資質を養わせる。	B	重大事件・事故の発生が無く、大半の生徒は交通マナーを遵守しているが、一部、徹底できていない生徒がいた。また、事件にまではならないものの、インターネットトラブルが数件あった。	自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせ、さらなる安全教育の充実を努める。また、インターネット被害などの危険を察知し、予防・回避する態度を育成する。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。